

講義名	スポーツ科学演習 A (バスケットボール/バドミントン)		
担当教員	森下 純弘		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 2時限	授業形態	演習

履修開始年次	1年生	単位数	2	備考	
--------	-----	-----	---	----	--

主題と概要

講義内のスポーツについて、共通したチームスポーツの特性と理論について理解し実践力を高めるとともに、体気づき、仲間との交流、体の調整、基礎的な体力要素である力強さ、柔らかさ、ねばり強さ、巧みさ等これらの運動課題(体験)を習得し、また、効果的に、楽しく学習できる指導方法を身につけることを狙いとす。
グループ学習による演技を中心に行い、理論については講義並びにグループ討議を行う。
各スポーツに対するルール理解、技術・戦術を理解した上でゲームに用い、積極的に取り組む。
スポーツの楽しさを体験し、仲間や対戦相手への感謝の気持ち、コミュニケーション能力の育成。

到達目標

1. 「健康」獲得の方法を修得できるようになる。
2. 様々なルール、応用技術・基本戦術を理解し、説明できるようになる。
3. 応用技術、基本戦術を修得し、生涯にわたるスポーツ実践の礎とすることができるようになる。

オンデマンドでの受講では、以上の到達目標を達成することが難しい。このため、対面授業とする。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染者、または、濃厚接触者に指定され、一時的に退学が中止となった学生については、その期間のみ課題学修などによって対応する。

提出課題

必要な場合のみ、課題の提出を求める。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

それぞれの課題に対して、講義で講評・解説等を行う。

評価の基準

授業実施時間数の4回以上欠席した者は単位を認定しない。
授業中の評価: 受講態度など・・・・・・・・・・・・・・・・・・80%
中間期の評価: レポート課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・10%
期末期の評価: レポート提出・・・・・・・・・・・・・・・・・・10%

履修にあたっての注意・助言他

初回ガイダンス時の説明は重要です。
スライドを用いての説明の為、欠席されると初回以後の説明が出来ませんので注意してください。
また、スポーツが苦手な者も楽しんで講義に参加し、体力の維持向上に励んでほしい。

教科書	.使用しない。				
-----	---------	--	--	--	--

プリント資料及び参考文献

講義内容により、適宜プリントを配布する。

授業計画

履修者数やグループ数・メンバー数に応じる為、下記は一例となります。

第1回 ガイダンス
第2回 個人技術の習得
第3回 個人技術の習得
第4回 チームプレーの習得
第5回 チームプレーの習得
第6回 競技ゲームの企画運営
第7回 競技ゲームの企画運営
第8回 スポーツインテグリティを考える(講義)
第9回 個人技術の習得
第10回 個人技術の習得
第11回 チームプレーの習得
第12回 チームプレーの習得
第13回 競技ゲームの企画運営
第14回 競技ゲームの企画運営
第15回 まとめ

新型コロナウイルスの状況により、接触の恐れのある練習内容については実施できないこともある。その場合には、到達目標を優先するため内容を変更することがある。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア: PBL(課題解決型学習)	イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ: ディスカッション、ディベート	エ: グループワーク
オ: プレゼンテーション	カ: 実習、フィールドワーク
キ: その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

ルールや技術、練習方法について、4時間程度で良いので本やインターネット等で事前に調べておくことが望ましい。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目を受講し、目標を達成することで、本学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質：能力の5項目および、健康スポーツ科学のカリキュラムポリシーへ貢献することができる。集団や個人でスポーツ実践へ取り組む中で、明るく元気な、どのような場所でも物怖じすることなく、誰とでもしっかり言葉を交わすことができ、逆境でもたくましく生き抜く力、つまり「ネアカ」のひのびへこたれず、のび伸びを育むことができる。また、問題点やその要因を発見し、自らが進んで取り組めるようになる。そして、他者に働きかけ、協力して課題へ取り組むことにより、円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。
生涯にわたってスポーツと関わったり、健康の維持・増進に努めたりすることができるような知識を得て、理解することができる。
以上は、全学部・学科の所属学生へ共通している。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

「本科目については対面授業のため、実技を中心とした授業展開となる。」
ただし、「新型コロナウイルス予防対策として、全ての授業がオンラインに変更された場合には、オンラインによって授業を実施することになるので留意すること。」

実務経験の有無及び活用

備考